

暁木会会員 各位

平成 21 年 9 月 吉日

暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 15 号では平成 20 年度総会、平成 21 年度に開かれた東京支部総会、広島支部総会の報告に加え、三木先生から「研究報告」についてご執筆頂き、また第一線での活躍ぶりや、新顔紹介について会員諸氏から寄稿いただきました。

不十分な点も多々あることと思いますが、ご意見等がございましたら、末尾の連絡先までご連絡下さい。今後も暁木会ニュースを会員の皆様にご愛読いただけますよう取り組む所存ですので、なお一層のご協力をお願いします。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載する予定ですのでご覧下さい。

暁木会平成 20 年度総会について

大学の卒業式、終了式のあと、昨年度を 30 人近く上回る 202 名ものご出席をいただき、平成 20 年度総会が湊川神社の楠公会館で開催されました。総会では、来賓紹介、会長挨拶の後、5 つの議案について全会一致で可決されました。今年度は 2 年に 1 回の役員改選の時期であり、新制 20 回の南部光広新会長が選任され、就任の挨拶が行われました。議案の内容は HP の資料をご覧ください。

総会の後に行われた懇親会では、神戸市交響楽団の有志メンバー（新制 20 回谷口浩様ご夫妻、加藤様、西村様）による演奏が行われ、例年がない優雅な雰囲気が会場に流れました。西名誉教授の乾杯の音頭からは、懇親会も盛大に盛り上がりました。

大変楽しい懇親会でしたので、昨年度出席されなかった会員の方々も、今年度はご出席頂くことをお願いいたします。

日 時：平成 21 年 3 月 25 日 18:00～21:10

会 場：湊川神社 楠公会館

出席者：ご来賓(名誉教授、教官) 35名

会 員 72名

卒業生・修了生 95名

(合 計 202名)

議 事：1 会務報告

2 役員改選

3 会計報告

4 監査報告

5 予算案

懇親会：1 来賓挨拶（笹山前神戸市長）

2 卒業 50 周年祝金贈呈（新制 7 回生（代表：西名誉教授））

3 優秀学生表彰（暁木会賞：丸尾陽平様、KTC 賞：安福皓介様、土木教室賞：松山航様）

会員数：卒業・修了者：4、292 人（うち学部卒業生 58 人、大学院修了者 10 人）、物故者 810 人、会員数 3、482 人（平成 21 年 4 月 1 日現在）

H21 年度役員 会長：南部光広 ㉔、副会長：亀山剛司 ㉓・尾原勉 ㉗、KTC 副理事長：池野誓男 ㉒、KTC 理事：本下稔 ㉓、田中稔 ㉗、常任幹事：濱村吉昭 ㉓、伊藤裕文 ㉒、寺谷毅 ㉓、会計幹事：野並賢 96C)



■ 総会出席者



■ 石岡 暁木会会長 挨拶



■ 南部 新暁木会会長 挨拶



■ 神戸市交響楽団の有志による演奏

平成 21 年度 第 1 回神戸大学・暁木会意見交換会

さる 6 月 18 日（木）午後 6 時から、工学部生協食堂・AMEC において大学との意見交換会が開催されました。

当日は、大学側 11 名、暁木会 9 名の参加のもと、暁木会会長、市民工学専攻長の挨拶の後、南部会長から中山専攻長に対し学術振興基金助成金の贈呈が行われ、亀山副会長の「乾杯」の発声のもと、意見交換会がにぎやかにスタートしました。昨年度に引き続き、会食しながらの意見交換が行われ、大学、暁木会双方からの提案について活発な意見が交わされました。在学時から先生方のお顔ぶれは変わっていますが、研究、教育に対する学科の真摯なご姿勢は変わっていないと感じ、意見交換を通じて活力をいただいたことは、幹事の役得と感じた次第です。

意見交換内容は以下の通りですが、概要については HP に記載していますのでご覧ください。

【意見交換内容】JABEE 関係（OB アンケート中間報告）、インターンシップの受け入れ企業のお願い、講義プロジェクトマネジメント、平成 20 年度総会・平成 21 年度年間行事について等

暁木会会員、母校教壇に立つ

～プロジェクトマネジメント講義の紹介～

準教授 加藤正司先生③

3年生を対象に、2008年度後期から「プロジェクトマネジメント」が開講されています。この授業はこれまで開講されていなかったですが、JABEE受審に伴う講義内容の見直しの際に、従来の講義科目でカバーされていなかった、建設プロジェクトに係わる現場での諸問題を学生に周知する必要があることが認識されて開講されるに至ったものです。講義ではプロジェクトマネジメント・建設マネジメント・契約と責任・海外事業をキーワードに、官公庁、ゼネコン、コンサルの経験豊富な6人の講師の方々により、事例・実体験談を踏まえた講義を担当して頂いております。

表-1はシラバス（講義計画）に記載されている授業目標と学生の学習目標です。専門的ではありますが、多角的な理解が学生に求められております。学生の受講登録率は選択科目にもかかわらずほぼ全員であり、2限（10：40）授業開始であります。出席率も毎回70%近い状況でした。授業では、各講師により豊富なスライドを駆使して視覚的な講義が行われました。初年度としては講義も問題なく順調に行われ、今年2月に行われた授業評価アンケートでも、学生の評価は4（ほぼ満足）に近い評価を受けています。表-2、3には今年度の講師と授業内容を示しましたが、今年度も学生にとっては、現場に即した興味深い講義として好意的に受け入れられるものと考えられます。

表-1 授業目標および学生の学習目標

授業目標	学生の学習目標
インフラの計画、施工、管理・運営をプロジェクトの管理運営の視点から講述する。特に実際のプロジェクトを題材に具体的にインフラ整備・運営の特徴を紹介するとともに、事例に示されたプロジェクトで留意すべき事項を理論的に説明する。	1. 実際のプロジェクト事例・ケーススタディを通して建設分野におけるプロジェクトの特徴を理解する。 2. プロジェクトマネジメントで重要となる Plan/Do/See の概念とその構造について理解する。 3. 建設プロジェクトを実行する上で必要な発注・受注関係、組織論、契約に伴う法的責任について習得する。 4. プロジェクトを最適に実行するための方法を習得する。 5. 国内事業と海外事業の差異について理解する。

表-2 2009 年度プロジェクトマネジメント講師一覧

氏 名	所 属
鴻池 一季 ㊹	(株)鴻池組 特別顧問
小林 六郎 ㊹	株式会社ディアコンサルタンツ 代表取締役
南部 光広 ㊹	応用地質(株)技術本部 技師長 (関西支社駐在)
末永 清冬 ㊹	神戸市企画調整局企画調整部調整課 参事
水口 和彦 ㊹	神戸市水道局技術部 課長
油井 洋明 ㊹	神戸市建設局西部建設事務所 副所長

表-3 2009 年度プロジェクトマネジメント講義内容

	月 日	担当者	授業内容
1 .	10 月 5 日	鴻池一季	建設業におけるプロジェクトマネージメント その 1 (建設工事 PM のフロー・工事例 1)
2 .	10 月 19 日	鴻池一季	建設業におけるプロジェクトマネージメント その 2 (工事例 2・環境関連工事)
3 .	10 月 26 日	鴻池一季	建設業におけるプロジェクトマネージメント その 3 (海外における PM)
4 .	11 月 2 日	南部光広	地方自治体における CM (コンストラクションマネジメント) 方式による道路整備事業 (1) ①建設プロジェクトの実施方式概論 ②CM方式導入の経緯と特徴 ③工事着手時までの実施内容
5 .	11 月 9 日	南部光広	地方自治体における CM方式による道路整備事業 (2) ①工事の経緯と CMR の役割 ②環境対策 ③地元との協調
6 .	11 月 16 日	南部光広	地方自治体における CM方式による道路整備事業 (3) ①トンネル建設における地山評価 ②新技術の導入 ③CM方式導入の成果
7 .	11 月 30 日	水口和彦	神戸空港計画及び兵庫運河再生計画における都市戦略
8 .	12 月 7 日	水口和彦	神戸市の水道事業におけるプロジェクトマネージメント
9 .	12 月 14 日	小林六郎	ラオス国メコン河で日本の河川伝統工法を適用した河岸侵食対策プロジェクトの事例紹介 (1)
1 0 .	12 月 21 日	小林六郎	ラオス国メコン河で日本の河川伝統工法を適用した河岸侵食対策プロジェクトの事例紹介 (2)
1 1 .	12 月 25 日	末永清冬	明石海峡大橋アンカレッジ建設における技術開発とプロジェクトマネジメントについて
1 2 .	1 月 7 日	小林六郎	インドネシア国ジャワ島の電力供給のためチタル河に建設されたサグリ・チタ水力プロジェクトの事例紹介
1 3 .	1 月 18 日	末永清冬	神戸空港の建設を実現した土木技術について
1 4 .	1 月 25 日	油井洋明	神戸市震災復興事業 (土地区画整理事業、市街地再開発事業、街路事業) について
1 5 .	2 月 1 日	油井洋明	神戸市の都市づくり (都市計画) について

研究報告（コンクリート構造）

准教授 三木朋広先生

既設構造物の劣化が進む状況に対して、適切な維持管理システムが求められています。鉄筋コンクリート（RC）構造物においては、塩化物イオンに起因した鉄筋腐食が問題となります。鉄筋が腐食すると、コンクリートの弱点を補っている鉄筋の引張力に抵抗できる断面が減少します。さらに、膨張圧によって鉄筋に沿ったひび割れが生じ、コンクリートと鉄筋の付着（一体性を保とうとする性能）が劣化するため、コンクリート部材の耐荷力が低下すると指摘されています。このような現象を踏まえた上で合理的な維持管理を行うには、劣化した RC 構造物の残存構造性能を正確に評価する必要があり、そのための解析ツールが必要です。本研究では、鉄筋腐食やひび割れ状況などの劣化の程度を表す情報を用いた、構造物の残存性能評価手法の構築を目指しています。

ここで紹介する格子モデルは、RC 部材を軸力のみを伝えるトラス要素に離散化しているので、力の流れを容易に特定できる簡便な解析モデル（図-1）です。この格子モデルにおいて、主鉄筋およびせん断補強筋の断面欠損を考慮することに加え、主鉄筋とコンクリートの節点を別々に設け、せん断ばねと垂直ばねから成る接合要素を用いることで（図-2）、鉄筋腐食した RC 部材の耐荷性能を評価できることを明らかにしました。さらに、実際の供用環境下で鉄筋腐食した RC 部材を対象として、3 次元格子モデルを用いた解析を行い、降伏荷重や最大荷重を妥当に予測できることを示しました。以上の成果は、構造物を維持管理する際に時間的、空間的な軸に対する構造物の性能を把握するための有用な情報を与えるものであり、2009 年度日本コンクリート工学協会論文賞を受賞するなど学術的にも評価されています。

この他、コンクリートに生じたひび割れを非接触で広域に精度良く計測することを目指し、LED をターゲットに用いた非接触変位計測法を開発しました（図-3）。この方法は、高精度デジタルカメラによって撮影した画像を画像解析することによって、例えばある領域に局所化するコンクリートの圧縮破壊挙動を捉えるなど、コンクリート部材を対象とした各種構造実験において活用しています。

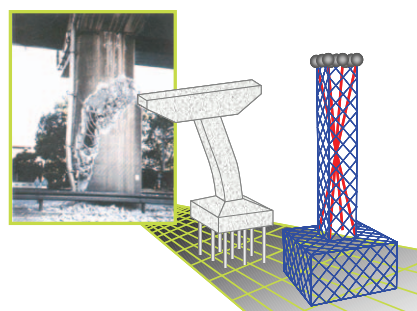


図-1 モデル化の概念（RC橋脚の場合）

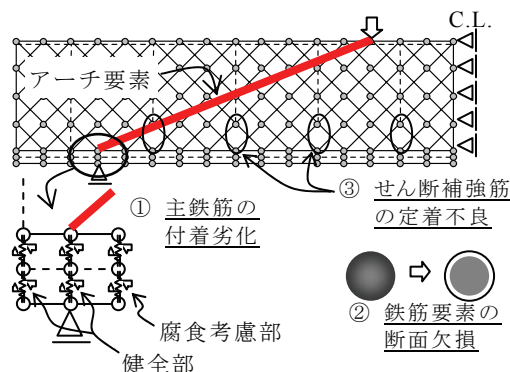


図-2 鉄筋腐食の導入方法

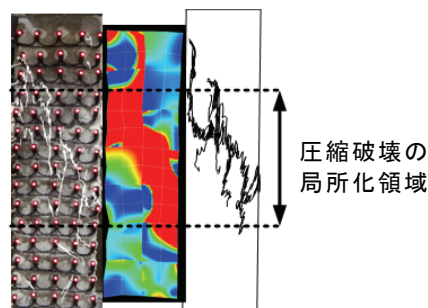


図-3 LEDターゲットを用いた非接触変位計測結果の一例（左：LEDと供試体の写真、中央：画像解析による主ひずみ分布、右：ひび割れスケッチ）

スタートライン（新顔紹介）

ジオドクター（地球のお医者さん）を目指して

応用地質株式会社関西支社 ジオテクニカルセンター 大藪 剛士 C06M

神戸大学の修士課程を修了し、応用地質株式会社関西支社に入社して早4年になります。在学中は、都市安全研究センターの沖村孝先生、鳥居宣之先生のご指導のもと、主に斜面防災工学・地盤工学について学ぶ中で、建設コンサルタントという職業に憧れ現在の会社に入社いたしました。私の会社は大きく地質・土質・設計・環境（土壌）・生態の5つのカテゴリから構成され、現在私は土質チームで日々土の不思議に悩まされつつ、その面白さに惹かれています。



入社以来4年、民間の地盤調査を主に担当してきました。仕事の流れは、まずお客様（構造設計の方）と打ち合わせを行い、目的や懸念されている事柄を理解することから始まります。これを踏まえ調査計画書を作成しますが、私は必ず最初に現場視察を行うことを心がけています。これは、調査の良し悪しを左右するのは調査の出来次第であると考えているのと、業務の円滑な遂行のためにははじめの所見が大事であると考えているからです（学生時代にはよく沖村先生に現場を見に行けと言われて、一度も見に行きませんでした…。）。その後、具体の調査に入り、室内試験結果や解析検討を経て報告書の作成といった手順になります。

民間業務は、調査工期が非常にタイトです。このため、夜遅くなることもしばしばあります。ある時、業務が集中した折には、毎日午前様になり会社や、会社近くのカプセルホテルが定宿になっていたこともありました。「あ～、しんどい」と思うことも多々あります。しかし、お客様に感謝していただいた時は、コンサルタントとしてプロジェクトのパートナーになれた喜びがこみ上げます。今では近畿圏内で計300弱の孔を掘ってきました。おかげ様で、知り合いのお客様も増え、今では直接お仕事をいただいたり、業務時間中に数十分の世間話も出来るほどの関係を築けた方もいらっしゃいます。これも、コンサルタントとしての私の喜びの一つです。

タイトルにあるジオドクター（地球のお医者さん）は、会社のキャッチコピーでもありますが、私の目指すところでもあります。まだまだ経験も浅く、知識や経験に基づく問題解決能力は非常に浅はかであると感じております。現在、神戸市の新神戸の地盤減災研究会においてご指導いただいている渋谷先生・鳥居先生をはじめ、先輩諸兄、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜り、ジオドクターを目標に今後も邁進していきたいと思っております。

人との繋がりが大切、そして毎日が勉強！

株式会社 JTB 西日本神戸支店 大久保圭 C07

株式会社 JTB 西日本に入社して3年目になりました大久保圭と申します。学生時代は、交通系の朝倉先生のもと、人や車の移動など交通調査の研究を行っておりました。

現在は、母校の近くの神戸ハーバーランドにあります神戸支店で法人営業を担当しております(<http://www.jtb.co.jp/shop/kobe/>、よろしければ覗いてみて下さい)。入社して JTB が扱っている商品の多さに驚かされました。職場旅行はもちろん、出張、招待旅行、報奨旅行、視察旅行、研修旅行。最近では、周年行事、組合レクリエーション、展示会、学会が増えています。他には、商品券や旅行保険、福利厚生「えらべる倶楽部」まで。毎日がパンフレットを見て勉強です。



入社1年目は飛び込み営業を中心としていましたが、2年目以降は、お客様の課題を見つけ解決に向けて JTB が何をお手伝いできるかを考え提案する営業をしています。神戸支店には土木出身はもちろん理系出身の人間すらいないので、お客様にはよく驚かれますが、逆に珍しがられ人間関係の構築に役立っています。

旅行の添乗に行くことも多く、日本各地やハワイ・オーストラリアなど海外へ行くこともあります。もちろん添乗中はお客様のお世話で自分が楽しめる暇はありませんが、特に海外では見るもの食べるものすべてが刺激的でとても勉強になります。

最近では仕事で神戸大学に行くことが多く、先生方の出張や400名規模の学会運営のお手伝いも担当させていただきました。今でも大学に行くと心が安らぎます。

日々の営業で感じる事は、人との繋がりがほど大切なものはないという事。特に暁木一水会での諸先輩との出会いは宝物です。過去、社長会のシンガポール視察旅行やサークル OB 会の中国周遊旅行などご紹介いただきました。これからも日々の出会いを大切に、勉強し経験を重ねて早く一人前の営業マンとなれるよう努めていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

現役最前線

私の研究室

山口大学 イノベーション推進機構 教授 近久 博志 ②



私の研究室では、岩盤工学に関する計画・調査試験・設計・施工・維持管理の実務に携わっている研究者や技術者と一緒になって、次のような現場や構造物に適用できる実務的な技術の研究開発に取り組んでいます（括弧内は、ここ1年の発表論文）。詳細は、研究室のホームページ（<http://geoeng.crc.yamaguchi-u.ac.jp>）をご覧ください。

- 1) 研究プロジェクトのマネージメント…地盤構造物に活用されてきた技術の新しい活用分野を模索するための研究開発（産業遺産として残されている地下空間を利用した環境調整型トレーニング施設の課題と可能性について、掘削地形を利用した半地下式冷凍倉庫の利用、国際リニアコライダ計画の施設設計の現状）
- 2) 国土の有効利用に向けた地下空間利用施設の計画と設計…道路や鉄道や地下発電所などで活用されているトンネルや地下大空洞の計画技術や設計技術の研究開発
- 3) 岩盤や地盤を対象にした設計・解析手法…経済的で、高品質な地盤構造物を目的とした地盤物性の調査・試験と設計・解析手法（応力変形、熱伝導、浸透流）の研究開発
- 4) 現場計測データを設計にフィードバックする評価手法（情報化施工技術）…低コストで高品質な土木建築構造物の実現に向けた現場計測システムと得られた計測データの設計へのフィードバック手法の研究開発（画像解析手法を用いた地下水流向流速計による連続的な流向測定精度、長大構造物の健全性監視のための FBG-BOTDR 計測システムの開発、デジタル写真を用いた史跡「石城山神籠石」の平面図作成に関する一考察、史跡「石城山神籠石」保存に関するレーザプロファイラ測定の適用、地下空間利用における地上型レーザプロファイラの適用(防空壕への適用事例))

山口大学に来て4年になり、ようやく研究環境も整い、研究助成や学外への展開に取り組めるようになってきました。ノーベル賞で湧いた素粒子の加速器の次世代研究施設（国際リニアコライダ計画）や地域再生のための産業遺産の有効活用のための地下空間利用の提案、画像計測や光ファイバーやレーザプロファイラを利用した岩盤の変位挙動や地下水浸透流を監視するための新しい計測システムの開発などが最近の研究テーマとなります。こうした中で、動画画像処理、精密写真測量、応力変形問題の逆解析、複合現実感（Mixed Reality）が一緒になったシステムの開発をしており、撮影したビデオ画像から評価された地表面の変位挙動から効率良く地盤内の挙動を予測してみようと思っております。最近、手軽に入手でき、解析が容易な画像データに、どこまで付加価値が付けられるか楽しみです。

大学の自由な空気に触れながら、岩盤や地盤に関連する構造物、特に、不特定多数が入場する地下空間の計画、設計、現場計測、施工管理全般にわたる体系的な研究を進めています。地盤構造物の実務面に即した研究内容が主体ですが、興味のある方は、お気軽に、研究室にお立ち寄りください。



図-1 実験中のひずみ分布(供試体の载荷実験)

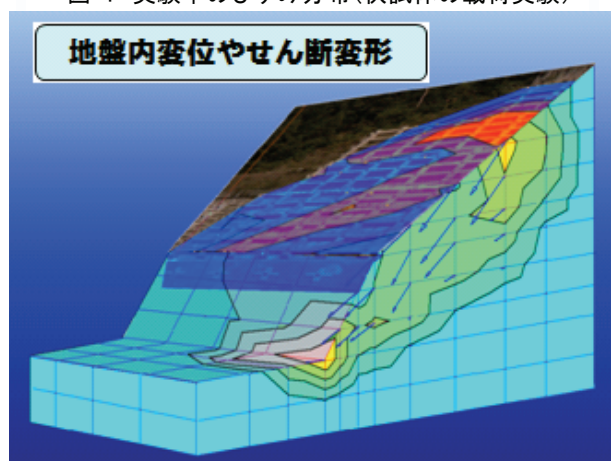


図-2 撮影された動画像から法表面、さらには、地盤内の変位や地盤の強度特性を評価 (Visual GeoEngineering System)

兵庫県における地域活性化に向けた公共交通の役割について

兵庫県県土企画局交通政策課 芦田 渉④

神戸大学修士課程を修了後、兵庫県庁に入庁して以来、早くも 12 年が経ちますが、軽部大蔵先生並びに田中泰雄先生をはじめ、ゼミの先輩である河井克之先生とは本当に御無沙汰しております。神戸大学とは、仕事以外に 2 年前に経営大学院で MBA を取得するなど、個人的にも大変お世話になっております。本年 4 月から、交通政策課に勤務し、尾原課長（暁木会副会長）のもと、兵庫県内の公共交通の活性化に向けて、おもに第 3 セクター鉄道の支援に関する業務を担当しておりますので、その一部を紹介させていただきます。

兵庫県が出資する第 3 セクター鉄道は、北近畿タンゴ鉄道㈱（宮津線：豊岡～西舞鶴）、智頭急行㈱（上郡～智頭）、北条鉄道㈱（栗生～北条）、関西高速鉄道㈱（尼崎～京橋：JR 東西線）の 4 社ですが、このうち都市部を通過する関西高速鉄道㈱と、京阪神に特急を乗入れている智頭急行㈱を除き、残る 2 社は、おもに地方部を拠点とする鉄道です。このため、過疎化の進展による沿線住民の減少に加えて、日常生活における自動車利用の高まりから、住民の足としての公共交通の地位は低下しており、厳しい経営状況が続いています。このような社会情勢の変化に加えて、昨年度末からの景気悪化や新型インフルエンザ、高速道路料金 1000 円化による経営環境の悪化は、第 3 セクター鉄道の経営にとって追い打ちをかける打撃となりました。

こうした状況の中、兵庫県をはじめとする自治体には、「目指すべき地域の姿を実現するために、ふさわしい地域公共交通のあり方」を検討し、その実現に向けて第 3 セクター鉄道への支援に取り組むことが求められています。

そこで、H19 年度に「地域公共交通活性化・再生法」が施行され、市町を中心に住民や事業者とともに協議会を設立し、鉄道、バス、旅客船、自転車など様々な交通機関の連携による「地域にふさわしい公共交通」の実現を目指した取り組みを展開することが定められました。

具体的には、交通事業者では、通学、通勤、通院など地域住民のニーズに対応したダイヤの改善や、低床車両などの車両改善、観光客誘致を目的とした企画乗車券の販売やイベント列車の運行などに取り組むこととなります。また、沿線市町では、複数の交通事業者と連携して、駅前広場整備やパーク＆ライド用駐車場整備、バスとの接続改善などにより、公共交通の利便性を高めるための取り組みを実施することとなります。

世界的には、CO₂ 排出抑制のため、自動車から公共交通への利用転換が進んでいます。これに逆行するような動きが国内にはありますが、「地球に優しい地域の足」として、公共交通の支えにより豊かな地域社会が実現できるように努力していきたいと考えています。

会員の皆様におきまして、通勤や出張、旅行の際には、是非公共交通を利用して頂くようお願いします。そして、少し足を伸ばして本県の第 3 セクター鉄道にもご乗車頂ければ幸いです。

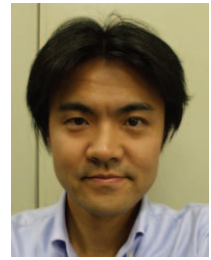


図-1 兵庫県内の公共交通網



図-2 イベント列車の運行

研究活動紹介

大学院工学研究科市民工学専攻

博士後期課程 1 年 川尻 峻三

私は、現在、澁谷啓教授のご指導の下で研究を行っています。澁谷教授は、地盤安全工学教育研究分野に所属されており、この教育研究分野には、澁谷研究室以外にも加藤正司准教授、鳥居宣之助教の研究室があります。それぞれの教員に学生が配属されていますが、取り組む研究内容に応じて、複数の研究室がチームを組んで研究を実施しており、学生部屋も合同となっています（写真 1 参照）。それぞれの研究室における研究テーマは、地震・豪雨に強い盛土工法の開発、不飽和盛土材料の広範囲のひずみでの単調・繰返し載荷時の強度・変形特性、リサイクル材料の地盤構造物への適用性の検討、自然斜面崩壊発生メカニズムの解明、自然災害危険度の評価手法の開発、など多岐に亘っていますが、共通のテーマは、「地盤災害の軽減」および「循環型社会の実現」です。

また、3 つの研究室が合同でゼミ発表や様々なイベント（学会参加、コンパ、歓送迎会、謝恩会等）を行うことで、研究室の垣根を越えた絆も大切にしています。このようなイベントを通じて形成される人間関係は、我々の研究を進めていく上で必要不可欠なものとなっており、研究分野のユニフォームとして作業服を作る（写真 2 参照）など、常に研究分野内の結束力を高めています。

このような雰囲気の中で、私は博士論文の研究テーマとして、「広範囲なひずみ領域での不飽和地盤材料の変形強度特性に関する研究」を行っています。近年、記録的な豪雨によって不飽和状態にある補強盛土内の飽和度が上昇し、盛土全体の強度・剛性が低下することで崩壊に至る事例が報告されています。このことから不飽和状態にある土構造物の降雨および地震時の崩壊メカニズムを解明することは急務と言えます。不飽和状態にある盛土の破壊・変形挙動の予測には、要素試験によって広範囲なひずみ領域での単調・繰返し載荷時の変形強度特性に及ぼす水分状態、密度、拘束圧などの影響を評価する必要がありますが、不飽和土に関するこの種の研究例は極めて少ないのが現状です。そこで、不飽和土の水分状態が広範囲のひずみ領域での弾性係数などに与える影響を明らかにすることを目的として、不飽和土の試験に対応可能な高精度・多機能な三軸試験装置を開発（写真 3 参照）し、試験より得られた不飽和地盤材料の弾性係数に及ぼす拘束圧依存性および水分状態の影響について研究しています。盛土崩壊は、市民の安全・安心を脅かすため、本研究の成果によって、不飽和状態にある既設盛土の正確な地盤材料の物性値を反映した健全度評価が可能となり、盛土の性能を総合的に評価できるものと期待しています。

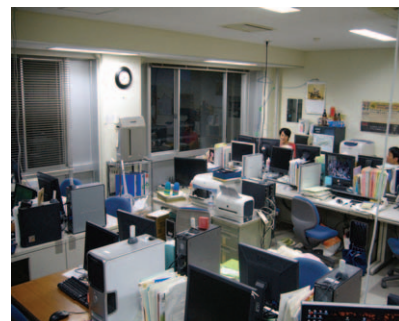


写真 1 学生部屋の様子



写真 2 作製した作業服

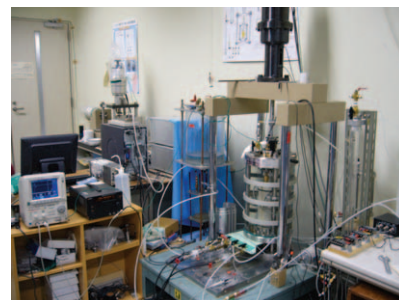


写真 3 開発した試験装置

支部総会の報告

暁木会は各支部でも活動を行っています。東京支部の総会が7月3日(金)に、広島支部の総会が7月31日(金)に、東海支部の総会が8月25日(火)に行われました。締め切りの都合から、今回は東京支部と広島支部の総会報告をさせていただきます。

・東京支部報告

平成21年度暁木会東京支部総会を平成21年7月3日(金)、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より喜多秀行教授、暁木会本部より南部光広会長にご出席いただき、また東京支部会員は新入会員5名を含む49名に参加いただきました。

総会前に喜多先生より「社会資本としての公共交通」というテーマでご講演いただきました。単なる道路や鉄道建設のお話ではなく、モノとしてのインフラ以外に制度資本や社会環境にも視野を広げ、より質の高い暮らしを実現するため、公共交通を活用して地域に即したサービスの提供や効率的運営を目指す、というお話に会員のみならず興味深く聞いておられました。

総会では役員改選の審議が行われ、新支部長に長谷康生氏⑳、副支部長に時政宏氏㉑が選任されました。また南部会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話をいただいた後、本部助成金目録の新支部長への授与をもって総会を終了しました。

懇親会は冒頭に喜多先生より大学の近況のご報告をいただき、美藤恭久氏㉒の乾杯のご



発声により始まりました。途中、新入会員の自己紹介をおりませ、世代を越えた歓談に花が咲きました。最後は時政副支部長の音頭のもと万歳三唱をもって2時間にわたる懇親会が終了しました。

懇親会終了後、多くの方が気の合う仲間同士で夜の街に消えていかれたのは言うまでもありません。

報告者 東京支部事務局 前田建設工業 三輪 享㉓

・広島支部報告

平成21年7月31日にKKR広島にて暁木会広島支部総会が開催されました。本年度は暁木会本部より亀山剛司副会長、大学より飯塚敦教授をお招きし、支部会員16名とあわせて18名での開催となりました。

亀山副会長からは、暁木会本部活動内容や役員交代の件などの報告説明があり、引き続き会員入会状況の説明がありました。また、現在卒業生の約3分の1と会費納入が低調であることから、会員増強を目指しての新規会員勧誘を広島支部でも行ってほしいとのお願いがありました。

飯塚敦教授からは大学の近況報告があり、土木工学から建設工学そして市民工学への変遷経緯について語られ、引き続き現在の講座構成及び教職員構成の説明がありました。ま

た、土木関連業種の活動変遷や、技術者としての心構えを語っていただき、その後、神戸大学及びその他大学の卒業生進路の10年間の変化について説明をいただきました。

懇親会は梅田支部長の挨拶により始まり、参加されたそれぞれの支部会員の立場から、昨今の建設業界の環境や将来などについて語り合い、大変盛り上がりました。

広島支部では例年、本部と大学から来賓をお招きし、神戸の近況をお話しいただくとともに、将来の我々の活躍の場や後進の指導などさまざまな話題で盛り上がっています。このような有意義な交流の場を今後もさらに盛り上げていけるようにしたいと思っております。また、中国地域のみならず九州など他地域からのご参加も大歓迎ですので、来年度以降も多数の方のご参加をお待ちしております。

報告者 広島支部事務局 復建調査設計株式会社 高橋俊之 C98

暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1,000余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいております。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、皆様に送付した住所確認のはがき、クラス幹事や各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費納入の手続きが未了の会員各位には、引き続きご理解とご協力お願い致します。なお、手続き等に関する問合せは、巻末の連絡先（野並）までお願い致します。手続き関連書類を送付させていただきます。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

平成21年度の名簿発行について

今年度は、平成20年度の総会で可決頂きましたように、収支バランスの都合等から、暁木会会員名簿発行を見送らせて頂いております。悪しからずご了承下さいませ。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。下記、連絡先まで、ご意見をお寄せください。

発行者：暁木会

連絡先：会計幹事 野並 賢 C96

応用地質株式会社神戸支店

TEL：078-252-2108 FAX：078-252-2109

E-mail：nonami-satoshi@oyonet.oyo.co.jp

http：//www.gyoubokukai.jp